

IV 地域の若者

公民館活動に若者の参加や意見の反映が不可欠ではないかとの前提に立ち、各対象地域で活発に活動している団体をご推薦いただき、その代表からご意見を伺った。

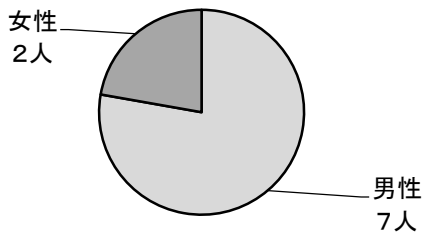
1 地域の若者組織の代表プロフィール

① 所属団体

都市部	子ども会連絡協議会長
	小学校PTA会長
	児童愛護会会長
住宅部	市PTA連合会長
	小学校PTA会長
	商工会青年部支部長
小集落	中学校PTA会長
	前青年団長(休止中)
	青年組織会長

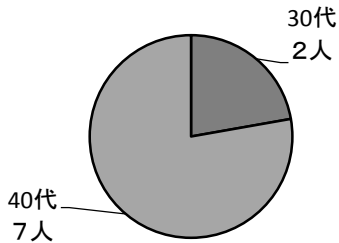
ご推薦いただいた9名の回答者のうち6名はPTA、子ども会、愛護班など子どもと関係の深い団体の長であり、残る3名は商工会青年部、青年団など青年組織の代表であった。

② 性別



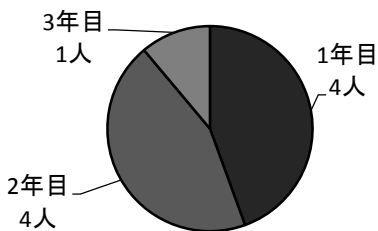
回答者9名のうち男性が7名、女性が2名。

③ 年齢



回答者9名のうち30代が2名、40代が7名。  
平均年齢は42.4歳。

④ 経験年数



最短1年、最長3年。  
平均経験年数は1.6年。

⑤ 現在兼ねている他の役職

9名中6名が何らかの役職を兼務しており、子育て世代が多いことからか、青少年の健全育成にかかわる役職を兼務している。

都市部	校区子ども会連絡協議会長、地区社会福祉協議会、児童クラブ運営委員会、小学校教育問題等懇談会、地区自主防災会連絡会、地区共同募金会
	公民館運営審議委員、市補導員、地区自治会副会長
	現在の兼務役職はなし。
住宅部	市社会教育委員、県P理事、市少年健全育成推進協議会長、市食育推進委員会委員、社会を明るくする運動推進委員、家庭教育学級運営委員会委員、国体運営委員会委員、県薬物乱用防止指導員、中予保健所地区協議会役員など
	公民館運営審議委員
	市観光協会支部理事 町づくり推進委員 地区児童生徒をまもり育てる協議会会員
小集落	特になし。
	青年団長時の兼務役職はなし。 地区体育委員

⑤ 会長(代表)になったいきさつ

所属団体での活動経験年数が長いことが要因となり、推薦されているケースが多いことが窺える。

都市部	ブロック(6ブロックが活動)の役員(順番制)となり、その中から選出された。
	PTAの役員を歴任していたこと、JCに加入していたこと、自営業のため仕事を抜けやすいというイメージがあったことなどから
	児童愛護会は、小学生の子どものいる家庭が加入する団体であり、少子化により会員数が減少しつづけている。現在、1地区の校区児童愛護会員は、1家庭しかなく昨年度副会長、さらには地区役員が6年目ということなどから会長になった。
住宅部	市内2つの中学校PTA会長が、2年交互に市P連を兼務している。
	誰もする人がいなかったから 前支部長からの依頼
小集落	地区理事9名で、年度末に話し合いを行って決まった。
	地域在住で若者自体、加入者も減る状況にあり、自分が選任された。
	みんなからの推薦 (今までは会長職は2年くらいで交代している。)

⑥ 会長(代表)になる前の経験

都市部	特になし
	PTAの役員を歴任。幼稚園からP役員をしてきた
	H25 PTA財務部長、校区児童愛護会副会長
住宅部	市役所勤務、中学校PTA副会長2年
	PTA広報部員
	商工会青年部ぞうきんかけレース委員長
小集落	小学校PTA役員6年間、地区の体育部長を3年間
	市消防署勤務 消防士
	メンバーの一員

2 組織概要

① 組織名、対象人口と加入率

	組織名	対象人口	加入率
都市部	校区子ども会育成連合会	全体数は不明:小学校児童数289名 +校区外からの通学者	子どもの会員212名
	小学校PTA	家庭数310	加入率100%
	校区児童愛護会長	不明	不明
住宅部	市PTA連合会	児童・生徒数3,122	非加入家庭なし
	小学校PTA	家庭数466	加入率100%
	市商工会〇〇支部		部員26人+OB15人
小集落	中学校PTA	生徒数67	PTAには全戸加入し、会費も納められている。
	青年団 (現在は休止中)	概ね18~40歳	約10/172名が加盟していた
	YYC (〇〇ヤングクラブ)	H26.6月末現在、地区の人口 1,454人(672世帯)会員30人	加入率2.1%(単純に地区人口を会員人数で割ったもの)←若い人の人口が不明。どこまでを若いと定義するのも曖昧なため。

② 所属団体における市町村合併のメリット・デメリット

メリットとしては、地域が広がったことで他地域の情報取得、交流人口の増加などが挙げられた。  
 デメリットとしては、都市部への人口流出、地域が広がったことにより情報の共有化が困難であることが挙げられている。

都市部	メリット、デメリット特になし
	メリットは、他地域の情報を得やすくなった。 デメリットは、学校数が多くなったため、市教委職員の目が行き届きにくくなった。
	メリットは、小学校区は、市町村合併により地域内での交流人口が増えたと感じる。H24年度末をもって、近隣の2小学校が廃校となり、本校に統合した。このことがきっかけとなり、年に一度PTAが主体となって廃校で親子キャンプを実施するなど、活動の場が広がっている。 デメリットは、特に感じていない。
住宅部	合併後、児童・生徒数の減少が続いている。
	デメリットは、合併により学校数が増え、会長会を行ってもどこに学校があるのかもわからない学校がある。また、行事をするにしても大きくなりすぎる。もう少し狭い範囲の方が、何をやっても深められる。大規模のPTAと小規模のPTAとではできることが違う。
	メリットは、人とのつながりが広がった。 デメリットは、人口減により、イベント運営が厳しい。
小集落	メリットは感じない。デメリットとしては、まず、スポーツ・PTA等々のすべてが市中心部に動いている気がする。ただし、小学校区にある生活改善センターにおいて実施する活動は市町村合併後も変わらず続けている。
	メリットは、思いつかない。 デメリットは、とても大きい。とにかく人がいない。自分が新居を地区に建てた時には、何十年ぶりだろうと喜んでいただいた。村だったころには、役場に50人の職員が在籍し、支所となった現在は5人しかいない状況である。役場職員だった人たちの多くは、職場が市中心部等になり、そのまま引越しをされた。
	メリット・デメリットともに、なし

3 団体と公民館のかかわり

① 地域における団体活動と公民館活動の連携の現状

密接に繋がっている団体と繋がっていない団体で温度差が大きい。

都市部	地区子ども会の事務局はなく、公民館で印刷や事務手続きの支援をいただいている。公民館行事のうち部分的に、子ども会に任されていることがあり(バザーのうどん部門等)運営や収益分配でのつながりもある。公民館運営審議会では、子ども会の委員は、最も若い世代であるし、経験も皆無に等しいが、メンバーの方々に教えていただくことが多く、親切にサポートしていただいている。会計では、育成補助金をいただいている。
	スポーツ少年団の総括は公民館である。 1館1小学校なので、密接な関係ができています。
	緊密な関係にあり、なくてはならない存在であると感じる。また、学校も同一敷地内にあることから、地域と学校と家庭が連携して多くの事業を実施することができている。
住宅部	単位PTAでは各種活動において連携があるかも知れないが、市P連としては会場利用が主で、ほとんど関係がない。市職員が市P連事務局を担っている。
	PTAとし、児童館とのつながりはあるが、公民館とのつながりはない。愛護班を通してのつながりはある。P会長として運審委メンバーとしてのつながりはある。
	盆踊りの櫓組み、れんげ祭りでのステージ運営など。
小集落	地区公民館との関係は、大きな行事(運動会・まつり)に限られるが、生活改善センターとは緊密な関係にある。小学校・地域の行事等で強くつながっている。
	大変、緊密だった。地方祭、盆踊り、運動会、クリスマスイベントはもとより、文化祭ではカフェを出店するなど、地域行事の殆どに参加・参画していた。また、定期的に青年団で新聞を発行したり、活動資金で地域に手作りのベンチを設置したりするなど、地域貢献できていた。しかし、市町村合併後、活動休止直前には上記カフェの構成員が自分の家族のみとなるなどは団員数の減少に歯止めがかからなくなり現在に至っている。
	依頼があれば、手伝う。

② 公民館利用の実施行事

団体により積極的に利用しているところとそうでないところがある。PTA等は主に学校を使ったりしている。

都市部	子ども会の行事では、公民館の施設をあまり利用することはない。小学校でクリスマス会や親子球技大会を行っている。公民館主催の行事では、公民館施設を利用し、子ども会も参画している。
	町民運動会 PTAおやじの会(公民館でうどんづくりなど) 公民館祭には、PTAとしての役割はない。
	特徴的・代表的な事例として、子どもたちの将来の夢や美化標語を書いた絵札を取り付けたプランターを校区内の協賛者宅等に設置する「愛護会美化推進事業」がある。
住宅部	市P連役員会、研修会(H26子どもの読書活動推進研究会)
	PTAとしてはない。
	なし(商工会議所を利用している。)
小集落	運動会の反省会等で利用
	現在は、なし。
	納涼大会、体育祭、竹の子学級、社会福祉施設との交流会、スポーツ大会、クリスマス会

③ 公民館の利用頻度

利用頻度として多くても年10回程度である。

都市部	子ども会の行事では、公民館の施設を利用することはあまりない。
	PTAとしての公民館の利用はない
	かなり高い頻度で利用している。事務所を公民館内に設置しているため。
住宅部	H26年度 8回利用予定
	なし
	打合せなどに年数回
小集落	年間2、3回
	青年団がなくなってから、利用が極端に減った。幼・小・中・地区合同運動会には、PTAとして参加している。
	年間約10回(総会、クリスマス会、納涼大会、社会福祉施設との交流会、体育祭、竹の子学級など)

④ うまくいっている点、或いは今後こういう改善をしたら良いと思われる点

改善点をあげる意見がないが、繋がりができていない場合に運営等うまくいっているという意見が多い。

都市部	物心両面で子ども会をサポートしていただいている。公民館の職員の方との連携ができていときは運営がスムーズである。
	館長とPTA会長が顔見知りのため、つながりが深くなっている。 公民館主催の行事へのPTAの参加依頼の要請がある。
	愛護会と公民館の繋がり・かわりについては、非常にうまくいっている。 また、本年度より公民館の窓口である公民館主事が交替する(市職員→嘱託職員)とのことで不安があったが、良い関係を継続することができている。
住宅部	現状で満足している。特に改善要望等なし。
	公民館の方からPTAにしてほしいことを言ってくれると協力できる。
	うまくいっている点・・・ぞうきんかけレースのPRを公民館にお願いしている。頼りにしている。 改善したらよい点・・・なし
小集落	もっと学校の先生と地域の方々とふれあう場があれば、子どもに良い影響が生まれると思う。公民館、住民、PTAの3者が一緒になって地域を支えることが理想であり、その拠点は公民館であると感じる。
	良好な関係だった。行政から、青年団という名前は残して欲しいとの要望があり現在に至っている。
	うまくいっている点・・・会員がとても協力的。竹の子学級など、本会が活動しないと開催できないものもあり、なくてはならない団体となっている。活動には参加できない会員も、必ず会費は納めてくれている。 改善点・・・会員が増えるといい。

⑤ うまく連携していくために、会長(代表)として特に留意されている点

どの意見も良好な人間関係を大切にしていることが窺える。

- ・ 子ども会行事で、協力者を募りたい場合、公民館とのつながりのある婦人会や老人会といった地域の組織へ働きかけることもできる。しかし、組織へ協力を依頼すると、同時に子ども会と協力いただいた組織との互惠関係となり、子ども会会員への負担となることを怖れている。
- ・ 公民館、市P連事務局職員、自分のすべてが市職員であるため、特に留意することなく現在の関係を築けている。
- ・ 行事、研修等で公民館を利用する際には、積極的に公民館関係者に声を掛けて連携を促している。
- ・ 人間関係を大切にしている。
- ・ 良好な関係を構築するために、あらゆる行事に参加していた。市町村合併後、人がいなくなってしまうことに歯止めをかけられなかった。ただし、今年の文化祭で復活という声もある。
- ・ 今までの主事さんには住民も頼りすぎていた。公民館の役割は、利用団体の自立支援であると感じる。そのため、団体の自主性が求められていると感じる。
- ・ 依頼があればすぐ公民館の手伝いをするようにしている。

⑥ 当該組織と公民館との繋がり・かわりに関する特色ある取組み

- ・ 地方祭・・・毎年、4月末に実施される祭りにて、ステージ運営を行っている。
- ・ 盆踊りの櫓組み・・・盆踊りに向けて、会場の櫓組みを商工会青年部が担っている。
- ・ 社会福祉施設との交流会・・・町内にある社会福祉施設（18歳未満の要養護児童を養護し家庭的な環境を与え、社会の健全な一員となるよう、必要な指導援助を行うことを目的としている施設）との交流。年に1度の交流を子どもたちは大変楽しみにしている。
- ・ 竹の子学級年4回実施・・・小学校6年生との体験活動（登山、サイクリング、カヌー、キャンプ）
- ・ スポーツ少年団関係の大会（ソフトボール、バスケットボール）・・・会場は町総合公園、くじ引き（企業や商店からの寄付など）は子どもたちにとって、本大会の楽しみの一つになっている。
- ・ 納涼大会・体育祭・・・地区住民が多数参加。

⑦ 10年前と比べて、変わったと思う点、やはり変わらないと思う点(市町村合併など)

地域によって変わったこと、変わらないことで熱心に活動している点が挙げられている。

都市部	1年任期なので、公民館とのつながりの変容はよく分らない。 子どもの数も減ってきており、事業の経費も少なくなりつつある。前年度分の景品や企画は踏襲したいと思っ てはいるが・・・。
	公民館がどういものなのか十分に知らない人が増えているのではないか 例えば、どうすれば〇〇教室に入会できるのかなど 役をしていない人は、公民館を使う頻度は少ないのではないか PTAとして、物を借りる時は、借りやすくよい
	当該地域に、若い人が越してこない。若い人がいても、自治会(愛護会)に加入しない家庭も多い気が する。 加入している家庭についても、サラリーマンの方々は昼の会合等への出席が難しいため、どうしても自営 の方に役員がまわってくる。 入会してみないと愛護会の良さが分からない部分が、自分自身にもあった。
住宅部	会長になっての期間が短いため、不明。
	なし
小集落	変わったと思う点・・・今の方が、家庭・地域・公民館が密着している。体験型イベントが多い。熱心に活 動されている公民館主事さんが多い。
	地域が少子化、高齢化により人口が大変少なくなったが、公民館とのよりよい関係は続いている。なくて はならない存在だと感じている。
	変わったと思う点・・・人の減少 やはり変わらないと思う点・・・人のあたたかさ
	変わったと思う点・・・なし やはり変わらないと思う点・・・熱心に活動している点

#### 4 公民館を活性化するための新企画アイデア

公民館を拠点とした交流を望む意見が多い。

##### ① 公民館よりの支援、自由にさせてほしいこと、その他

###### 公民館よりの支援

- ・ ニーズに対応した関係機関や地域の人材のリストがあればありがたい。
- ・ 現在のところ中央公民館との共催事業は行っていない。単位PTAでは地元の公民館・集会所と密着した活動を行っているので、市P連としては、特になし。
- ・ 子どもが気軽に遊ぶことのできる場所になればいい。子どもを見守る体制が公民館の中にあるといい。若い人対象のメニューがない。ただ、若い人が公民館に集う必要があるのかとも思う。
- ・ PTA活動の中でバザー用品の募集を行った際、公民館を通じて呼びかけることで従前より多くの協力をいただくことができた。このように、公民館は常日頃から異世代が集うことのできる地域の拠点であるため、より多くの世代が交流できるイベントを期待する。
- ・ (当該組織に対してだけではないが…)、地域の人の中に、すごい技を持っている人がいる。その人たちが地域の子どもたちに教えてくれるとよい。家庭では教えることのできない部分を教えてほしい。
- ・ なし (今の状況で満足している。)

###### 自由にさせてほしいこと

- ・ お互いに自由にさせてもらっているので、特になし。

###### その他

- ・ お金では、解決できないことがある。今ある行事の対象や規模を徐々に広げることが大切だと感じる。そこで、新たな人間関係、信頼が生まれるのではないかと。また、やってみないと、かかわってみないとわからないことがたくさんある。そうやって、地域を盛り上げていく必要がある。
- ・ 公民館とはどういうものか無理解な人が多い。地域で行っている行事も公民館行事なのか、そうでないのかも分からないものが多い。住民もそこまで気にしていない。啓発が不十分なのではないか。地域の寄合などは、公民館ではなく自治会館を活用することが多い。住民の中には、公民館がどこにあるのかも知らない人もいないのではないかと。防災・減災という視点からも公民館を通して地域のつながりをつくっておくことが重要である。
- ・ 具体例はないが、公民館を拠点とした各種団体の交流が深まる事業を期待する。

#### 5 公民館と連携・協働事業

##### ① 現状(年間事業実施回数、参加人数等)

9団体のうち4団体で連携・協働事業がないため、調査対象としていない他の団体でも半数は公民館と連携・協働事業はないことが考えられる。

都市部	なし
	町民運動会、公民館祭への協力(運審委として)、スポ少で草引き、サマーフェスティバルに、スポ少が出店、防災訓練:連合自治会と公民館の共催
住宅部	校区親子球技大会、納涼大会、敬老慰安会、市民運動会、なわとびチャンピオン大会&七草がゆ大鍋会の開催
	なし
	なし 協力する団体が多くあり、PTAにお手伝いの声はかからない。 年間2回(盆踊り、地方祭)、盆踊り10人、地方祭18人 盆踊り実行委員会より昼食代支給、祭りステージの運営補助金あり 計画通りに活動できている。
小集落	PTAとしては、6月か7月に、小中学校合同でバレー交流をする。
	現在は、なし。
	H25 納涼大会15人 スポーツ大会20人 体育祭30人 竹の子学級平均7人 どの活動も盛況に終わっている。

② 課題(実施体制、広報など)、要望(新たな連携先)等  
会議の日時や人口問題に関する課題等がある。

(課題)

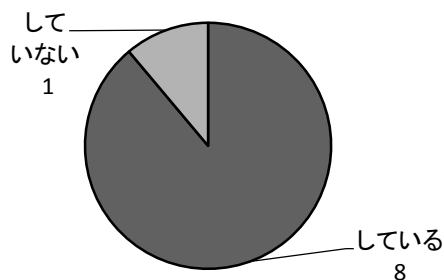
- ・ PTAとしての協力はなし。
- ・ 公民館からPTAに声を掛けてほしい。その方が動きやすい。
- ・ どうすれば活動を復活させることができるか。
- ・ 当該地域に、若い人が越してこない。若い人がいても、自治会(愛護会)に加入しない家庭も多い気がする。加入している家庭についても、サラリーマンの方々は昼の会合等への出席が難しいため、どうしても自営の方に役員がまわってくる。入会してみないと愛護会の良さが分からない部分が、自分自身にもあった。(再掲)
- ・ 若い人が少ない地域である。地元に残れば会員になってもらえるが、就職先がなく、若い人が残らないため、会員がなかなか増えないのが課題である。

(要望)

- ・ 市との連携事業を行うと、ほとんどの構成員が市職員であるため、イベントそのものが成り立たない気がする。

6 公民館運営審議会委員として

① 審議委員



回答者9名のうち8名が公民館運営審議会委員である。

② 審議会への参加状況

審議会委員となって1年目の方を除けば、全員審議会には参加している。

都市部	参加している
都市部	できるだけ参加している。
都市部	している。
住宅部	これまで、している。年間2回(5月、11月)
住宅部	ほぼ出席している。
住宅部	公民館運営審議委員ではない。
小集落	1年目で参加したことがない。
小集落	年間4、5回、参加していた。
小集落	必ず参加している。(会長になって1年目なので、まだ1回か2回の参加しかないが・・・。)

③ 最近の発言、提言と対応状況

- ・ 小学校改修工事で運動場が使用できず、子どもの遊び場(特にボールを使う場所)がなくなっている。子どもの遊び場の確保について、公運審でも検討課題に上がった。子供会は、毎年役員のすべてが交替するため、他の審議委員さんに教えてもらうことが多い。積極的な意見はしていない。
- ・ 発言経験なし。
- ・ PTAに参加依頼等があれば返答する程度  
→行事等への参加依頼が主である。
- ・ 重鎮が多いのでしていない。
- ・ 言わなかった。
- ・ 今までに発言はない。もし何か発言した場合は、他の委員が親身になって一緒に考えてくれるだろう。

④ 公運審の良い点、改善を希望する点

- ・ 保護者も子どもも楽しくかかわれることが理想である。（保護者の負担が減れば、子どものストレスも減るだろう。）負担を減らす工夫を。
- ・ 社会教育委員と公民館運営審議会委員との線引きが曖昧である。
- ・ 特になし。
- ・ 地域の密接なつながりをつくるのに役立っている。地域のつながりができていると、防災・減災につながるので、もう少し、回数があってもいいと思う。
- ・ 公民館の人が、もっともっと積極的に地域の人に協力依頼等、声掛けをして欲しい。
- ・ 良い点・・・楽しく話合いができている。参加しやすい会となっている。負担感なし  
改善を希望する点・・・なし

⑤ 今後、公運審が目指すべき方向と期待する役割

- ・ 地域のお年寄りを地域資源として取り込んだ活動を。
- ・ 具体例はないが、公民館を拠点とした各種団体の交流が深まる事業を期待する。“食”をキーワードに地域全体を巻き込むイベント。
- ・ 地域住民の交流が一層活発になるよう期待する。
- ・ 会長として、活動が続いていくよう頑張りたい。
- ・ 特になし。

7 公民館、行政(国・県・市町)への希望・要望

- ・ 環境がよく、とても住みやすい地域である。災害もない。しかし、働く場所がなく、若い人は、町外、県外に流れてしまう。若い人が残る就職先がほしい。